

TEX の印刷出版への利用

中西印刷株式会社*

2010/12/1

目次

1	TEX と印刷出版	1
1.1	お客様は通常のワープロまたは手書き、印刷所で一から TEX で組む	1
1.2	お客様が、すべて TEX で作成、PDF 出力したもので印刷する	2
1.3	お客様が、すべて TEX で作成、TEX データとしてもちこみ、印刷する	2
1.4	細かい指定や数式などはお客様が TEX、大きなレイアウトは印刷会社で TEX	2

1 TEX と印刷出版

TEX は組み版ソフトですから、当然、印刷もできますし、出版にも使えます。うまく使えば、品質をおとさないでコストダウンや校正手間の大幅な削減が可能です。しかし、意外にその方法はしられていないようです。ここでは、TEX を使った印刷出版についていろいろな印刷出版技法の得失を検討します

1.1 お客様は通常のワープロまたは手書き、印刷所で一から TEX で組む

この技法は、印刷所での組み版ソフトとして TEX を使うというものです。確かに、TEX は組み版ソフトとして非常に優れていますので、この使い方をする場合もあります。特に数式が多い仕事などは印刷会社でも TEX が使われる場合が多くなってきています。

しかし、印刷会社では、通常、TEX 以外の組み版ソフトを使っています。というのは、TEX は、自動化処理が行き届きすぎているため、細かい組み版指定がかならずしもやりやすいとはいえないのです。こういう細かい組み版指定をするにはそれに向くソフトがいくつも使われています。

いずれにしても、一から印刷会社で組み版をするわけですから、従来技法のうち、組み版ソフトが TEX にかわっただけです。これでは印刷代が節約できるといったメリットはないのです。もちろん、数学書などの特定分野に限って言えば、コストダウンも考えられますが、それほど劇的な効果は期待できません。

* <http://www.nacos.com/>

1.2 お客様が、すべて TeX で作成、PDF 出力したもので印刷する

いわゆるカメラレディと言われる方法です。TeX に限らず、ワープロでもなんでも今は簡単に PDF 出力できますのでそれをそのまま印刷用に使います。印刷会社での組み版工程が全く要りませんから、非常に安価にできます。また、校正も原稿を書く側での責任で行うことになり、手間はかかりません。しかしこの技法では、TeX である必然性はかならずしもありません。多くのワープロや DTP ソフトの中で TeX が選ばれたというだけの話です。

ところで、これは他のワープロで書かれた場合もそうなのですが、原稿を書かれる当人が印刷や組み版に詳しくないと、あまり綺麗なものはできません。TeX の場合、適切なクラスファイルを使えばそんなに見苦しい物にはなりません。逆に、いかにも TeX の標準クラスファイルで作ったことが歴然とした平板なものになりがちです。特に、出版する場合は、なんの工夫もないレイアウトになってしまえば、商品になりません。この文書がまさにその例です。この文書は pLaTeX2e のクラスファイル jsarticle で作っています。

結論としては、原稿を書く人がよほど TeX にこだわりをもって、しかも、印刷費を極限まで圧縮したい場合にのみ有効な方法だといえるでしょう。

1.3 お客様が、すべて TeX で作成、TeX データとしてもちこみ、印刷する

PDF にする前の、ソースファイルや DVI ファイルとして印刷会社にもちこまれてくるという技法です。以前は、TeX からの PDF 出力が難しかったため、多用されましたが、現在では PDF 作成が容易になりましたので、ほとんど使われることはありません。

1.4 細かい指定や数式などはお客様が TeX、大きなレイアウトは印刷会社で TeX

折衷的な方法ですが、TeX 利用としては、これがもっとも有効なように思われます。

まず、TeX でボード（太字）指定や数式指定など、印刷会社で行ったのでは手間、従って人件費のかかる部分が、お客様の手でなされます。これで印刷会社でのこまかい入力コストが省けます。TeX は生産性が高く、数式なども書きやすいのですが、実際一から書くとやはり力任せの作業になります。正直もうしあげて、今、一番費用がかかるのは人件費です。ここを圧縮しないとどうにもなりません。また、数式などは、意味のわかっている著者本人が書いた方が、なにもわからないで書いている印刷会社のオペレーターより生産性が高いのはご理解いただけるでしょう。だから、この初期部分はお客様に作っていただく。ワープロで原稿を作るのとおなじです。

そのあとのレイアウトについては、印刷会社のプロの技がありますし、読みやすい、売れやすい書籍出版らしい本にするには、組版センスがかかせません。ここはプロがやります。レイアウトについてはクラスファイルなどをうまく書いておけば、あまり手間暇もかかりません。

また、この技法だと、共著書などで、書いている人に TeX の知識差がある場合は、書ける人には、書けるレベルまで書いていただいて、書けない人の場合は、印刷会社で一から組むというような折衷的な取り扱いがやりやすいのです。

要は、それぞれの場面やご予算にあわせて、適切な方法がありますので、一度中西印刷までメールでお問い合わせください。